

ランチオンセミナーのご案内



2015. **11.12** THU
12:40 ▶ 13:40

C会場(タワーホール船堀)
東京都江戸川区船堀4-1-1

1 ヒト肝細胞移植キメラマウスを用いた ヒト体内動態予測性の検証と展望

佐能 正剛 先生

広島大学大学院医歯薬保健学研究院
生体機能分子動態学研究室

ヒトにおける医薬品候補化合物の薬効、毒性を見積もる上で、創薬においてその薬物動態や代謝物を予測することが重要となる。マウスの肝臓がヒト肝細胞で構成される「ヒト肝細胞移植キメラマウス」は、その肝臓にヒト型の薬物代謝酵素やトランスポーターが発現しているため、ヒトの体内動態を予測できる*in vivo*モデル動物として注目されている。

近年、チトクロームP450(CYP)やnon-CYP酵素であるUDP-グルクロン酸転移酵素、アルデヒドオキシダーゼなどで代謝される医薬品の代謝物プロファイル、PKパラメーターや血中濃度推移が予測できる可能性が示唆された。しかし、一部の医薬品において、ヒトの体内動態プロファイルを反映しない事例もある。この要因として肝外代謝や肝臓に残存するマウス肝細胞における代謝の寄与が考えられる。このことから注意深く予測評価を行う必要がある。ランチオンセミナーでは、ヒト肝細胞移植キメラマウスを用いたヒト体内動態予測性やその課題、本マウスと取り入れた創薬アプローチの提案、今後の展望について紹介する。

2 ヒト特異的代謝物の生成予測における ヒト肝キメラマウスの有用性について - 自社化合物を用いた検討 -

関口 和孝 先生

塩野義製薬株式会社
医薬研究本部 開発研究所 薬物動態研究部門

ヒト代謝物を精度高く予測することはより安全で薬物間相互作用リスクの少ない医薬品創製に重要である。一方、ヒトと非臨床動物間で薬物代謝酵素の基質特異性に種差が存在すること、また、ヒト肝細胞など*in vitro*試料では予測が困難な代謝物が存在することから、創薬段階においてヒト代謝物の生成を網羅的に予測することはいまだ困難である。

我々はヒトでのみ代謝物生成が認められた自社化合物を用いて、ヒト代謝物の生成予測におけるヒト肝キメラマウスの有用性を検証したので紹介する。

座長

株式会社フェニックスバイオ 常務取締役 研究開発部長 **立野(向谷) 知世**

300名様分の昼食をご用意しております。セミナー当日9:00より2階E会場付近に設置のランチオンセミナーチケット配布デスクにて整理券を配布致します(整理券はなくなり次第配布を終了致します)。

 **Phoenix Bio**

株式会社フェニックスバイオ
営業部 (松見、和田谷、池本)

〒739-0046
広島県東広島市鏡山3丁目4番1号
TEL 082-431-0016
Email sales@phoenixbio.co.jp